

宇都宮市立横川中央小学校 第5 学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○宿題に関する質問で「家で学校の宿題をしている。」の肯定的回答の割合は100%で、全員が家庭で取り組めている。また「学校の宿題はやりたくなる内容だ。」の肯定的回答の割合は61.3%で県の平均をやや上回った。今後もこの状態を継続して、望ましい家庭学習ができるように宿題の内容や量を検討して取り組ませたい。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の肯定的回答の割合は67.8%で県の割合を2.6%上回った。「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」の肯定的割合の解答は71.0%で県の割合を6.6%と大きく上回り、知的好奇心が高く、調べ学習を意欲的に行っている児童が多いことが分かる。各教科の発展的な学習が主体的に取り組める児童が増えるように、知識を広げ学ぶことの面白さが味わえるような課題提示を行い、支援をしていきたい。

○授業に関する項目で、「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている。」の肯定的回答の割合は、87.1%で県を4.4%上回り、「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている。」の肯定的回答の割合は92.5%で県を1.6%上回った。「授業を集中して受けている。」や「クラスは発言しやすい雰囲気である。」という質問の肯定的回答の割合も高いことから、授業に対する意欲的な姿勢が伺える。このよい傾向を伸ばしていけるように、教材研究に磨きをかけ、分かる楽しい授業を展開していきたい。

○家庭での生活に関する内容で、「家の人と将来のことについて話すことがある。」の肯定的回答の割合は72.1%で県を6.7%で上回った。更に「家のひとは、ほめてくれる。」の肯定的回答の割合は89.3%、「自分は家族の大切な一員だと思う。」の肯定的回答の割合は94.7%と高く、安心して過ごせる温かい家庭による支えを基盤として、自己肯定感を抱ける環境にある児童が多いことが分かる。

●平日における学習時間に関する項目では、1時間以下と答えた児童が60.2%で県を13.2%上回っている。特に30分以下と答えた児童15.0%に対して、家庭学習に取り組める生活習慣が身に付けられるように個別に支援をして、学習課題のヒントを与える等支援をしていきたい。

●「学習に対して自分から進んで取り組んでいる。」「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る。」という質問の肯定的回答の割合が県を下回り、特に難しい問題の項目では48.4%と低い。粘り強く課題に取り組み、解決できたときの達成感や喜びを味わえることを伝え、グループ活動やスクールタクトの効果的な学習を工夫して取り組めるように支援していきたい。

●学校の授業以外の読書時間が0時間と答えた児童が30.2%と県より12ポイント上回っている。読書の楽しさを日頃から伝え、ビブリオバトルや図書委員などの児童による読書推進活動を促し、読書を楽しむ児童を増やしていきたい。

●睡眠時間に関して、9時間以上と答えた児童が50.5%と県の平均を5.1%と上回ってはいるが、7時間以下と答えた児童が11.8%で睡眠時間が少ない児童も県の平均を上回っている。原因として、平日のゲームの時間やテレビ、動画を観る時間が長いということが考えられる。家庭と連携を取りながら、早寝早起きの健康的な生活サイクルを身に付けられるように指導していきたい。

宇都宮市立横川中央小学校（第4・5 学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習や自主学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度初めに、家庭学習に関する保護者あて通知を出し、保護者と連携をとりながら、家庭学習や自主学習への協力を呼び掛け、共通理解を図ることで、基礎・基本の着実な定着や確かな学力向上に向けた指導・支援を行っている。	4・5年生ともに、「家で学校の宿題をしている」の「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた児童の割合は、4年生が95.2%、5年生が100%であった。また、自ら取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた児童の割合は、4年生は72.2%、5年生は69.9%であった。
授業におけるめあてとまとめ・振り返りの充実	授業の最初に「本時のめあて」を提示し、最後にめあてを意識したまとめをすることで、児童一人一人が本時の学習の流れや内容を振り返り、学習内容の確認をする時間を設けている。	「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」の「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた児童の割合は、4年生は82.0%で県より7.6ポイント高い。5年生は82.9%で県より3.3ポイント高い。
「分かる授業」「楽しい授業」の実現に向けた授業形態の工夫	本校の研究主題「主体的に、自分の考えや思いを表現し、学び合う児童の育成～個別最適な学び・協働的な学びを通して～」のもと、ICTの効果的な活用を模索しながら、児童の実態に応じて、ペア、グループ、学級全体での話し合い活動など、対話や話し合い活動を行うようにする。	「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた児童の割合は、4年生は89.2%で県よりも4.9ポイント高く、5年生は87.1%で県よりも0.4ポイント低くなっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
--------------	--------	-----------

国語の「書くこと」の5年生の平均正答率は37.4%で県よりも9.8ポイント下回っている。4年生の平均正答率は41.0%で、県より18.3ポイント下回っている。「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」の質問に対して、「はい、または、どちらかといえば、はい」と答えた児童の割合は、5年生は64.5%で県に比べて4.2ポイント上回っている。4年生は66.3%で県に比べて3.6ポイント上回っている。	国語科をはじめ、各教科・領域の学習の中で、自分の意見や考えをもち、文章にまとめたり、発表や説明をしたりする機会を計画的に設ける。	書くことへの抵抗感を軽減するための取組として、国語科の学習を中心に、各教科・領域の学習の中で、内容やテーマ、字数などを決めて、自分の意見や考えを文章にまとめる機会を計画的に設けるようにする。発表や説明をしたりする学習を通して、思考力・判断力・表現力のさらなる育成を目指す。また、読書を励行することで、自分の考えをもったり、豊かにしたりする様々な知識や語彙力を身に付け、書く力の育成につなげていく。
--	---	---